

矢作川流域圏懇談会 海部会 WG

平成 28 年度の活動

(第6回全体会議資料より)

1. 海部会の目標とテーマ

海部会の3ヶ年（平成28～30年度）の活動テーマを以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
ごみ・流木の問題	被害軽減：干潟・水辺のごみ、流木対策検討に向けた調査
豊かな海の生物調査	理想追求：市民、学識者等の様ざまな調査より学習・分析
海と人の絆再生	人づくり：心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携
干潟・ヨシ原再生	自然再生：川と海の連携による干潟再生

(3ヶ年の目標)

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

2. 海部会 平成 28 年度の活動成果 まとめ

ごみ・流木の問題

- ごみ・川ごみ問題について全国的な活動を実施している一般社団法人 JEAN および全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について情報共有を行った。
- ごみ問題の解決策を検討するモデル河川の候補として矢作川が挙げられており、今後行動プログラムの立案などモデル河川としてのとりくみ要請があった。
- 愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った



プラスチックごみ問題の提供資料



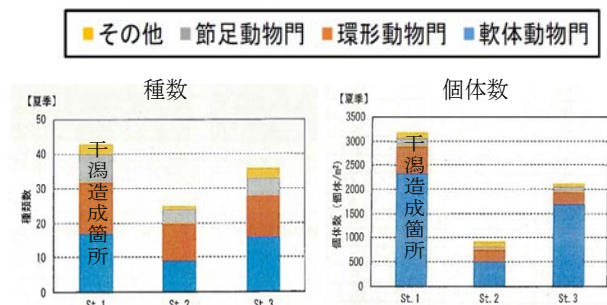
カードゲーム形式のごみ学習教材

豊かな海の生物調査

- 東幡豆の干潟造成箇所の現地視察を行った。
- 干潟造成箇所のモニタリング調査結果の中間報告について情報共有を行った。
- その結果、アサリをはじめ生物の生息環境として良好な状態が維持されていることが分かった。



東幡豆干潟造成箇所の現地視察



東幡豆干潟造成箇所および既存干潟における底生動物の生息状況の違い

海と人の絆再生

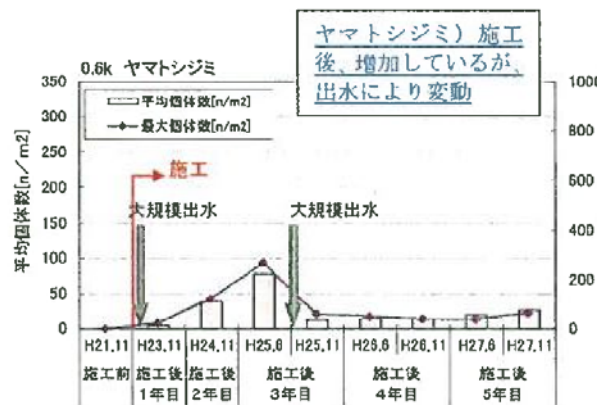
- 岐阜県恵那市串原町で開催された奥矢作森林フェスティバルに参加し、矢作川流域圏懇談会の海部会、山部会のブースを出展した。
- 多くの家族や子供たちが、海の生きものに大変興味を持って接していた。



奥矢作森林フェスティバルのブース出展状況

干潟・ヨシ原再生

- 矢作河口部の干潟・ヨシ原再生箇所での整備効果について情報共有を行った。



矢作川河口干潟でのヤマトシジミ生息状況

- 愛知県水産試験場が西浦沖で取り組んでいるダム堆積砂を利用した干潟造成 (H27 施工) に関する試験区での調査結果について情報共有を行った。



西浦地区でのダム砂投入試験区の状況

- 矢作川の総合土砂管理対策の一環として矢作ダム下流で実施された給砂実験の内容について情報共有を行った。

2.1 テーマ1：ごみ・流木の問題

(1) 今年度の活動より分かったこと

《海ごみ、川ごみ問題での全国的な課題の共有》

海ごみ・川ごみ問題について全国的な活動を実施している一般社団法人 JEAN および H27.8 に設立された全国川ごみネットワークの代表者を招き、河川流域と一体となった海ごみ対策の情報を共有した。

また、近年重要課題となっているプラスチックごみがもたらす被害状況の報告やマイクロプラスチックが生態系に与える影響について情報共有した。

海洋ごみの多くが陸域起因であり河川流域における「普及啓発・発生抑制対策」の重要性について認識した。

《川ごみ削減対策の全国モデル河川指定へ》

川ごみ問題の解決策を検討するモデル河川の選定が国で検討されており、その候補として矢作川が挙げられていること。今後、関係機関と連携してごみマップHPなどを活用しつつ目標を明確にした行動プログラムの立案をしていくことなどの要請があった。

《愛知県におけるごみ学習プログラム》

愛知県ではごみ発生抑制の普及啓発活動の一環として小学生向けの室内用学習プログラム「かっぱの清吉と海ごみのルーツを探ろう！」作成しており、海ごみ問題の学習用動画およびカードゲーム感覚でごみの発生原因や発生抑制を考える教材と学習の流れについての情報提供がされた。



資料：全国川ごみネットワークからの話題提供



資料：愛知県作成による海ごみ学習動画

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○山、川部会および矢作川流域で活動する関係美化団体等と協働で、流域内一斉調査を実施する。

《進捗状況》

・協働での調査、取り組みに向け、海ごみ・川ごみ問題について全国的な活動を実施している一般社団法人 JEAN および全国川ごみネットワーク、また愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。

○ごみマップ HP を活用して、流域圏全体のごみマップを作成する。

《進捗状況》

・今後、関係機関と連携し、ごみマップHPなどを活用しつつ目標を明確にした行動プログラムの立案をしていくことについての要請があったことを確認した。

(3) 今後の課題

○一斉調査およびごみマップ等の活用と、行政・市民団体等関係団体との協働体制を関連づけた行動プログラムについて話し合いを進めていく。

○愛知県が作成したごみ学習プログラムの取り組みの推進。

2.2 豊かな海の生物調査

(1) 今年度の活動より分かったこと

《干潟造成箇所（東幡豆）の現地視察》

ダム砂搬入箇所周辺ではアサリ稚貝が大量に生息しており、二枚貝類の生息場として良好な状況であることがわかった。



資料：海部会員による干潟視察

《干潟造成箇所（東幡豆）のモニタリング結果の報告》

地形状況は出水期前後で比較したところ、地盤高、粒度組成に大きな変化なく、水質、底質とも汚濁等の傾向はなかった。底生動物は、干潟造成箇所周辺ではアサリ等二枚貝類の生息密度が既存干潟箇所よりも高いことが示された。投入したダム砂は粒径が多様であることから多孔質な空間を形成し、生物の生息場として機能している可能性が高く、ダム砂の投入による干潟造成には大きな効果があると考えられた。

《宍道湖の活動報告》

伊勢・三河湾流域ネットワーク共同代表世話人の井上祥一郎氏から宍道湖におけるヤマトシジミ資源回復に向けた技術的研究の事例報告として、特に宍道湖で問題となっているアオコ、赤潮、青潮、ヘドロへの技術対策について底質の改善に関する研究事例や赤土客土の投入などの対策など最新の技術的動向と知見について紹介を受けた。



資料：東幡豆海岸陣声干潟モニタリング調査報告

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○造成干潟での生物モニタリング調査を懇談会メンバーが主体となって継続的に実施する

《進捗状況》

- ・東幡豆で開催した4月WG時に、参加部会員で干潟造成箇所を視察した。
- ・東幡豆では、平成28年3月から干潟造成箇所および周辺で地形、水質、底質および底生動物のモニタリング調査を実施し、ダム砂による干潟造成箇所の良好な結果について情報共有を行った。
- ・宍道湖におけるヤマトシジミ資源回復に向けた技術的研究について情報共有を行った。

○モニタリング結果をもとに、造成干潟の整備効果について整理し、外部に情報発信する。

《進捗状況》

- ・矢作川流域圏HPを見やすく分かりやすいものに再構成し、頻繁な更新を行っていく。

(3) 今後の課題

○干潟造成箇所のモニタリング結果の外部への情報発信について、整備効果の検証状況をふまえてホームページ等により分かりやすい資料の情報発信に努める。

○モニタリング調査については事務所主体で継続的に取り組んでいく。

2.3 海と人の絆再生

(1) 今年度の活動より分かったこと

《奥矢作森林フェスティバルへの参加》

奥矢作水源フォレストランド協議会が主催し、ダム事業への理解と、奥矢作湖および矢作川流域圏間の交流および流域一体で環境、森林保全を共に考えることを目的とした奥矢作森林フェスティバルに、流域圏懇談会として初めて参加した。

当日は、懇談会の山部会と海部会のブースを設け、海部会ブースでは東幡豆漁業組合が主体となって、海の生き物とのふれあいブース（タッチプール）を設営した。

イベントに訪れた千人近い参加者の中、多くの子供たちが貝やカニ、エビなどの生き物を手に取って観察し、名前を覚えるなど、海の生き物とのふれあいを通じて、海への関心を高めてもらうことができた。



資料：海部会出展ブースの状況



《ヨシ植え、生き物観察会への参加》

このイベントは、矢作川自然再生事業の一つとして、毎年豊橋河川事務所により取り組まれており、矢作川河口付近にてヨシの植栽や生き物観察会を行うもの。

今年度は、矢作川南部生態系ネットワーク協議会も協働にて取り組み、多くの参加申し込みがあったものの水位が高く中止となった。

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○矢作川流域圏内（山、川、海）の小学生を対象に、環境教育を目的とした干潟観察会を開催する（人工干潟を対象）。啓発イベントを検討・実施する。

《進捗状況》

- ・矢作川河口近くでのヨシ植え、生き物観察会への参加を呼びかけ、多くの申し込みがあったが残念ながら水位が高く中止となった。
- ・小中学生を対象としたプランクトン調査など学習イベントの方向性について話し合いを行った。

○愛知県主催『海の大感謝祭』の場を借りて、懇談会主体の流域圏連携に関するイベントを山部会、川部会と協働で実施する。

《進捗状況》

- ・『海の大感謝祭』が今年は豊橋での開催であったため、「奥矢作森林フェスティバル」の場を借り、懇談会メンバーの海部会と山部会の会員がブースを出展し、山と海との交流を図った。

(3) 今後の課題

- 小学生を対象とした啓発イベントとして、協力機関との調整およびプランクトン調査など実施項目の具体的な話し合いを進めていく。
- 「奥矢作森林フェスティバル」への参加を契機に、懇談会主体の流域圏連携に関するイベントについて、各部会と連携した企画に今後参画していく。

2.4 干潟・ヨシ原再生

(1) 今年度の活動より分かったこと

《矢作川自然再生事業のモニタリング結果報告》

豊橋河川事務所が自然再生事業として取り組んでいる自然再生箇所の底生動物の定着状況では、二枚貝類を中心に種数が増加傾向にあるが、出水による攪乱の影響を受けやすい環境条件であり、底生動物への影響も大きい。全体として、干潟を利用するシギ・チドリ類が安定して確認されているほか、ヨシ原ではヨシに依存するオオヨシキリ、オオジュリン等の鳥類が確認されるなど、造成干潟・ヨシ原が生物の生息場として機能し、効果が発揮されているとの報告がされた。

《愛知県水産試験場からの調査報告》

愛知県と矢作ダムが連携した、矢作ダム堆積砂を使った干潟造成(H27 西浦)箇所の経過報告について情報提供いただいた。

調査の結果、ダム砂を厚く敷くほど温度や流速などの地盤環境が安定していること、またアサリの着底稚貝および稚貝が多く確認されるなど様々な効果があるとの報告がされた。



資料：愛知県水産試験場
石田主任研究員による報告

《給砂実験の中間報告》

総合土砂管理問題に関する現況報告として、矢作ダムで土砂を流した際に下流環境に及ぼす影響を予測検討することを目的とした給砂実験の内容について報告を受けた。

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○ダム上流の砂をダム下流へ運ぶ「砂の駅」構想について、山部会、川部会との合同プロジェクトと位置づけ、PRイベントを開催する。

《進捗状況》

- ・「砂の駅」構想については、流域連携テーマとしての広域サイクリング構想と関連づけて話し合っていく。
- ・総合土砂管理検討の一環として、矢作ダムで下流で実施され地ている給砂実験の状況について情報共有を行った。

○河川内堆積土砂を活用した人工干潟の造成の実現に向けて、関係機関に働きかける。

○効率的かつ計画的な干潟再生を目指すため、国（水産庁）および愛知県が策定する「藻場・干潟ビジョン」との連携を図る。

《進捗状況》

- ・矢作川自然再生事業による河口部の干潟・ヨシ原造成のモニタリング結果について、生物の生息場として機能し、効果が発揮されていることが分かった。
- ・愛知県が西浦沖で施工した矢作ダム堆積砂を利用した干潟造成区での、愛知県水産試験場によるモニタリング調査の報告があり、アサリの着底稚貝が多く確認されるなど様々な効果があることが報告された。

(3) 今後の課題

- ・「砂の駅」構想の具体化について、広域サイクリング構想とも関連させて、今後話し合いを進めていく。
- ・ダム堆積土砂、河川内堆積土砂等の活用について、再度干潟造成を行いたい。また、港湾への干潟整備については、今後とも関係機関の調整状況を注視しつつ、その進捗が図れるよう出来ることを行っていく。
- ・「藻場・干潟ビジョン」との連携について、関係機関の調整状況を注視しつつ具体化について話し合っていく。